

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文審査報告書

論文題目

中国農村部における人民公社の設計、実際及びその影響に関する研究

-河南省駐馬店市遂平県衛星人民公社を中心に-

The Design, Reality and Influence of the People's Commune in
Rural China

The Case of Weixing Commune, Suiping County, Zhumadian City,
Henan Province, China

申請者

余 飛

Fei YU

建築学専攻 歴史工学・建築表現史研究

2021年7月

本研究は、1958年以降に中国農村部を対象として成立が図られた社会主義的基礎組織単位である人民公社の地域計画、建築計画ならびにその様式の特質を、近代建築史上に位置付けようとしたものである。同公社は1983年の憲法改正による解体まで、紆余曲折を経つつも中国近代農村の行政・経済機構として各地に建設運営されてきたが、その建築的詳細は不明で、史的評価は定まっていない。本研究では同公社の最も先駆的かつ代表的事例として著名な河南省の衛星人民公社を対象として、その設計に関する一次資料の分析ならびに実際の建造物の実地分析を行なった。

人民公社についての先行研究は、主にその政治・社会組織について論じたものは数多く存在するが、建築領域での研究は少ない。その成果の一端において、人民公社は先進国以外でのモダニズムの実践として認識、主張された。本論では、具体的な人民公社の計画から実現までの経緯の新たな詳細復元によって既往研究の主張を精密に再検討している。さらに、1972年日中国交回復後に発足したわが国の建築の学術技術の交流組織であった「日中建築技術交流会」(1973-2003)の訪中活動とその出版物の記録を通して、吉阪隆正をはじめとした日本人建築家たちによる人民公社像という国外からの評価も視野に含めた。

本論文は、序論・本論5章・結論から構成される。以下、各章の要旨を述べる。

序論では、研究背景と目的、先行研究、研究方法および本論文の構成について述べている。まず、中国、日本における歴史学や社会学の諸分野における先行研究を概略的に紹介し、次に建築学分野における研究を整理している。結果として人民公社の具体的な建築計画の経緯や建築様式の史的解明の不備を指摘している。

本論第一章「人民公社の設計における居住区域の配置計画」では、主要研究対象である衛星人民公社の地域計画の特質を検討している。具体的には最末端の共同居住単位であった生産隊の居住区域の配置方法論を紹介・分析している。同方法を計画・提案した設計組織は12名の華南工学院建築系の教員と学生からなるグループであった(以下、華工)。華工は当時の中国南部の拠点的建築教育機関であった。彼らは1950年代当時の中国農村の現実条件(地形的特徴、交通の状況)を踏まえた上で、農民の日常的な生産・生活行動を円形の徒歩圏に限定し計画・提案したのであった。その中心概念である「耕作半径」(居住区域から耕作地までの歩行距離を関数から導き出した値。道路の実際や地形の要素を加味した係数で除した)と「近隣住区」(ペリー・1924)のサービス半径との比較によって、衛星人民公社の生産隊居住区域の配置方法と西洋の近代都市計画理念が、地域計画を生活圈から構想する圏域的計画として共通した手法を持つことを指摘した。両者は規模や具体的な目的が異なるものの、通勤通学圏の理念、中心・周辺・境界によって構成される空間構成の把握方法に類似性が認められる。これによって先駆的公社の設計における圏域的計画のあり方の一端を初めて提示した。

本論第二章「人民公社の設計における公共建築の建築様式」では、華工が一体的に計画・提案した衛星人民公社計画案における公社の最高の行政管理機関である「公社中心」と第一生産大隊(中級の行政組織であり、行政村程度)の居住区域の建築群の配置計画

案に注目し、その様式の特徴を検討している。その結果として 1950 年代初期より中国に持ち込まれたソ連由来の社会主義リアリズムを基本としつつも、建築様式細部における 20 世紀初頭の西欧を発端とするモダニズムとの拮抗的併存関係を指摘し、その設計主体の出自の考察も加え、その経緯を検討している。具体的には、衛星人民公社中心の公共建築の平面・立面案は、社会主義リアリズムに則り公社成立以前からすでに当時の中国で主要な建築様式となっていた「大屋根様式（大屋頂建築）」（近代的な鉄筋コンクリート構造の躯体に中国の伝統的な屋根形状や装飾を付加させた様式。平面計画は中軸対称手法を採用）を前提としていた。にもかかわらず、同公社の立面提案においては「大屋根様式」の伝統的な屋根を排し、ル・コルビュジェの「輝く村落」（1934）に登場する反復するバレル・アーチ型（かまぼこ状）の連続屋根が採用されたことを初めて報告した。以上の建築様式の特徴の考察によって、同公社中心部の公共建築の設計提案では、これまで公社の主要な様式として考えられてきた社会主義リアリズムのみならず、モダニズムの文脈も併存したこと、またその提案組織であった華工にはドイツのカールスルーエ工科大学で教育を受け、ル・コルビュジェのアトリエに勤務した計画者が含まれていたことを明らかにし、その傍証とした。

本論第三章「人民公社の設計における居住建築の設計方針」では、人民公社制度下の集団生活の特徴、ならびにそれに対応した人民公社の居住建築のデザインとの関連性を述べ、さらにその背景として計画当時の中国建築界の設計動向を検討している。その結果として、同居住建築の設計が当時の中国政府が求めた方針にならって、経済性と標準化を主要な追及項目としていたことを明らかにした。さらに、華工による同公社地元の「民居」（民家の意）調査報告と、彼らが提案した集団住宅設計案の分析を通して、彼らが意識的に地方住宅を参照し、経済性と合理性を実態にあわせて検討し、集団住宅を設計した経緯を明らかにした。具体的には、その集団住宅の平面構成案は、経済的な一人当たりの居住面積の設定や、住棟の独立入口の強調はいずれも地元の住宅に由来した結果であったことを指摘した。しかしながら一方で、華工は過去の民家の「庭」の存在を意識せず集団住宅案を創出した。その結果、副業生産のための空間としての「庭」が各戸から消失した経緯も併せて指摘した。

本論第四章「衛星人民公社の実際」では、河南省駐馬店市遂平県に位置する旧衛星人民公社（現衛星人民公社旧址博物館）の現地調査に基づき、計画案との相違を明らかにした上で、実際に建てられた衛星人民公社の建築群の特徴ならびにその史的意義について述べている。その結果として、まず公社センター建築群の全体配置は中軸対称で計画案と共通していること、また役場機能を持つ中心建物である「弁公楼」における建築様式では、屋根はより簡素な切妻屋根として実現されたことを実測、報告した。これは人民公社の実際の建設において、大屋根様式でも、バレル・アーチ型でもなく、地元の古い民家の構造方式が援用された結果である。このことから同公社の建築様式が、近代的計画手法を経ながらも、その実現において地元の伝統的構法を踏まえねばならなかったことを指摘した。著者はここに同計画の実施が遭遇せざるを得なかった地域的特性の存

在を見出し、その後の建設活動への影響を検討している。例えば当時、エリート集団である華工と地元施工者が共同で行った一連の建設結果の中に、農民たちの集団住居のための新機能を備える公共施設が実現したことを指摘している。

本論第五章「日本人建築家の見た人民公社像 -日中建築技術交流会誌『日中建築』を中心として-」は、公社計画における地域的特性の存在の史的意義を外部の視点から見出そうとしている。そのために前述の、「日中建築技術交流会」の会誌である『日中建築』の記事を通して、吉阪隆正をはじめとした日本人建築家並びに建築各領域の専門家たちがそれぞれ執筆した人民公社像を紹介・検討している。それによれば当時の訪日日本人建築家・専門家たちが、自治を基礎とした集住組織化、伝統的な技術や、古い民家の意匠といった地域固有の要素に基づく中国の新しい造形の誕生等において大きな期待を寄せていたことを明らかにした。その上で、当時の中国におけるこのような近代性実現の困難が、逆に新たに地域的要素の重要性を発見せしめたことを積極的に評価すべきことを主張している。その後の1960年代から、先進国では建築における近代主義への反省が台頭した。人民公社一般はその「反省」期にあって、日本においては相応の建築家・専門家たちに、その先駆的存在として把握されたと主張している。この指摘は今後検討されるべき重要な着眼である。

結論では、各章を踏まえた上で、人民公社の計画においては、社会主義リアリズム、モダニズム双方の要素を含みながらも、その実際において地域固有の技術を採用する必要があると整理した。その上で、人民公社という社会実験が特に同時代の日本の建築専門家に与えた影響をまとめた。

以上を要するに、本論文は、人民公社建設の計画から結果までを取り扱い、その設計方法論の展開ならびに実現の過程に形成された地域の実際に向かう建設理念を、外部の視点からの考察を踏まえた上で近代建築史の流れに位置付け、その意義をあらたに認知せしめたものである。これら成果は、博士（工学）の授与に値するものと認める。

2021年7月

審査員（主査） 早稲田大学教授 博士（工学） 早稲田大学 中谷 礼仁

早稲田大学教授 工学博士 早稲田大学 後藤 春彦

東京大学名誉教授 工学博士 東京大学 村松 伸
